



生井澤 彩瑛 選手

東京2025 デフリンピック 出場おめでとうございます

(陸上女子100m・200m・4×100mリレー・4×400mリレー)

プロフィール

なまいざわ さえ
名前：生井澤 彩瑛

出身：潮来市

学歴：牛堀小学校・牛堀中学校
鹿島学園高等学校 卒業

所属：仙台大学体育学科 1年生(19歳)

デフリンピックとは

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのこと。デフ (Deaf) とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」なのです。

国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際スポーツ大会です。第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。

東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

(出展：東京2025デフリンピック | TOKYO 2025 DEAFLYMPIC
<https://deaflympics2025-games.jp/main-info/about-deaflympics/#gsc.tab=0>)

正式名称：第25回夏季デフリンピック
競技大会東京2025

(略称)東京2025デフリンピック

日程：11月15日(土)～26日(水)(12日間)

参加国：70～80か国・地域

選手数：約3,000人

競技数：21競技

※陸上競技は駒沢オリンピック公園総合運動公園等で開催。

潮

来の地元で育った大学1年生、生井澤彩瑛選手。笑顔を絶やさず、仲間や家族に支えられながら、挑む世界への挑戦について伺いました。

競技をはじめたきっかけは

「父が陸上をしていたことがきっかけで、小学3年生からはじめました。最初は鹿嶋陸上クラブに所属していました。」

陸上競技での思い出

「先天性の聴覚障害があり、スタートの音が聞こえにくく、どうしても遅れをとってしまうことがありました。小さな差でも勝負に大きく影響するので、とても悔しい思いをしました。」

友達に動作で合図をしてもらったり、一緒にスタートの動きを繰り返し練習するなど工夫を重ねました。

それでも、なかなかタイムは伸びませんでした。一緒に頑張ろうと声をかけてくれる仲間がいたことで、続けることができました。潮来の県民の森でみんなと汗を流した坂ダッシュは、苦しいけれど笑い合いながら走った大切な思い出です。」

仲間と過ごした時間は、苦しい練習の中にも笑顔を生み、生井澤彩瑛選手の陸上を支える原点となっています。

デフリンピックという目標

「高校3年の時、神栖ジュニア陸上クラブのコーチからデフリンピックの存在を初めて聞きました。デフリンピックの陸上競技はスタートの合図がランプ表示となっていて、自分も他の選手と同じようにスタートの勝負ができると思いました。」

新しく挑戦できる舞台の存在を知ったとき、デフリンピックで活躍したいという新しい目標ができました。

そして、憧れの名取英二部長や佐々木琢磨選手を目指して、仙台大学に進学しました。

走れない日々と支え

今年の6月、選考会後に足底筋膜炎になり、走れない日々が続きました。その間は筋力トレーニングばかりでしたが、先輩方に支えられました。なかでも、佐々木選手は明るく寄り添ってくれる先輩で、気持ちを前向きに保つことが出来ました。」

走れないもどかしさを抱えながらも、仲間存在に励まされ、気持ちを切らさずに乗り越えることができました。

未来へ向かって

「目標は100mで11秒6、そして金メダルです。まだまだ課題はありますが、一生懸命努力していきます。これまで支えてくれた家族、コーチ、友達に恩返しできるようなレースをしたいです。そして、多くの人にデフリンピックを知ってもらえるように頑張ります。」

潮来で育ち、仲間や家族に支えられてきた生井澤彩瑛選手。その明るい笑顔と前向きな気持ちを胸に、世界の舞台へ挑戦します。

挑戦する姿に私たちも元気をもらえます。みんなで一緒に応援しましょう。



東京2025デフリンピックキャラバン巡回

令和7年11月に日本で初めてデフリンピックが東京で開催されます。

東京2025デフリンピックやデフスポーツを周知するため、キャラバンカーが日本全国を巡回しています。下記の日程でキャラバンが潮来市に訪れ、デフリンピックのPR活動を行います。

◆日時◆ 10月15日(水) 午後4時～4時30分

◆場所◆ 潮来市役所 本庁舎前

◆内容◆
・デフリンピックPR
・記念撮影